

電子ジャーナルに関するアンケート調査結果報告

いちこ
市古みどり

(日吉メディアセンター課長)

1. アンケート調査について

全塾データベース委員会は、2003年9月22日から10月31日まで「電子ジャーナルに関するアンケート」調査を実施した。この調査は、教員の電子ジャーナルの利用状況を把握し、今後の電子ジャーナル契約の参考とするとともに電子化に対する意見を把握することが目的であった。

調査項目は、データベース委員会委員および5地区キャンパスの雑誌購読契約に関係している担当者の意見をもとに作成し、質問表は各地区ホームページに掲載した。このため、電子化肯定への誘導的な設問が多くなってしまった。アンケートへの協力の呼びかけについても、トップページの目立つ位置で行った地区もあれば、調査を実施していることさえ分かりにくい地区もあった。また、印刷体の質問表も同時に配布した地区もあった。このように、今回の調査は、質問内容や手続きなどについて科学的といえる方法を十分検討して行ったものではなかったため、回答の中には調査方法に関する意見もいくつか見られた。

したがって、本稿では得られた結果のみを報告する。設問毎に設けた自由回答項目については、紙面の関係上省略する。アンケートの最後に設けた、電子ジャーナルやデータベースに関する意見・要望は、内容を分類して報告するが、個々の電子ジャーナルに関する要望、調査方法などに関する意見などは省略した。

2. 調査結果

調査結果は表1にまとめた。回答総数は278でほとんどが利用経験のある教員からのものであった。最も利用されている分野は、医学、生物、化学、物理と自然科学系の分野であった。利用方法は、信濃町および理工学メディアセンターで個別に管理されているホームページのタイトルリストからのアクセスが最も多く、続いて、データベース検索結果のリンクによって利用されている。電子ジャーナルとプ

リント版の利用については電子ジャーナルがあればプリント版は使わないという回答が135あったが、併用という回答も121あった。電子ジャーナルの積極的導入については、ほとんどの回答者が積極的導入に賛成していたが、電子ジャーナルとプリント版ともに利用可能にしておくべきという意見が72あった。費用負担については慶應義塾全体で予算を確保すべきという回答が236あり、さらにプリント版の重複購入は塾内にあれば納得するという回答が224あった。

3. 調査を終えて

本調査は、日頃電子ジャーナルやデータベースを利用している教員からのコメントが大多数であろうことは否めない。メディアセンターではこの数字のみを根拠として電子化を進めることはできないが、現状での問題点、図書館業務・運用の改善への貴重な意見を収集することができた。ことにアンケートの最後に設けた、意見や提案は興味深いものであった(表2)。これらの中には、さらなるタイトル数の拡大を望む声が多く、また、電子ジャーナルのいわゆるアーカイブへのアクセス希望も多かった。また、本学のオンライン利用者目録KOSMOS II-OPACによる電子ジャーナル検索など、データベース検索後に必要なステップの煩雑さを軽減するためのナビゲーションツールの開発を望む声もあった。また、キャンパス外からのアクセスを可能にして欲しい、キャンパスによって異なる利用条件の違いをなくして欲しいなど、問題解決が容易ではない要望が数多く寄せられた。こうした問題を解決するにはやはり予算確保が最大の問題である。

慶應義塾大学のメディアセンターにおいては数年前から集中処理機構が設置され、資料の発注から目録にいたる業務はメディアセンター本部に集中された。図書館システムKOSMOS IIの機能により、利用者は地区を意識する必要なく何れのメディアセンターの資料も利用することができる。職員も地区間

慶應義塾大学メディアセンター「電子ジャーナルに関するアンケート」

表1. アンケート集計結果

総数		278	設問5	メディアセンターホームページのアルファベット順リストを利用する。	178
	内訳 三田	34		電子ジャーナル中の参考文献からのリンクを利用する。	65
	日吉	48		Web of ScienceやPubMedといったデータベース検索結果からのリンクを利用する。	134
	信濃町	62		電子ジャーナルサイトにある検索システムを利用する。	85
	矢上	88		電子ジャーナルシステムのアラート機能を使って利用する。	18
	湘南藤沢	32		その他	9
	経営管理研究科	13	設問6	電子ジャーナルとプリント版の雑誌では、どちらを利用することが多いですか。	
	先端研究教育連携スクエア	1		電子ジャーナルがあればプリント版は使わない。	135
設問1	電子ジャーナルを利用したことがありますか。			電子ジャーナルとプリント版を併用する。	121
	はい(設問2へ)	249		プリント版のみ利用している。	16
	いいえ(理由をお答えの上、設問6へ)	29		その他	6
	存在を知らなかったが、今後は利用してみたい。	6	設問7	設問6でプリント版を利用する、とお答えの理由をお聞かせください。(複数回答可)	
	存在を知らなかったし、今後もしないだろう。	0		電子ジャーナルは画質や画像が悪いものがある。	4
	利用する必要がない。	6		プリント版には電子ジャーナルにはない必要な情報が含まれる。	3
	インターネット環境が不十分なので利用することができない。	2		インターネット環境が不十分である。	4
	必要な雑誌が契約されていない。	8		その他	8
	使い方、探し方がわからない。	3	設問8	メディアセンターは電子ジャーナルを積極的に導入すべきでしょうか。	
	その他	4		はい	264
設問2	個人での電子ジャーナルの購読について該当する項目があればチェックしてください。(複数回答可)			いいえ(理由をお答えの上、設問11へ)	14
	個人で契約している電子ジャーナルがある。	22		研究分野に電子ジャーナルが存在していない。	1
	学会会員として電子ジャーナルを利用している。	90		プリント版のほうが利用しやすい。	8
	Pay-Per-View, Pay-Per-Hoursなどで個人的に論文を入手したことがある。	27		将来の利用に不安があるため。	0
	その他	14		その他	5
設問3	主に利用されている分野をお答えください。(複数回答可)		設問9	電子ジャーナルかプリント版かの選択についてどうお考えでしょうか。	
	哲学	4		プリント版から電子版へ移行できるものは電子にしていべきである。	137
	心理学	14		電子ジャーナル, プリント版ともメディアセンターは利用可能にしておくべきである。	72
	歴史学	8		雑誌ごとに検討すべきである。	41
	芸術学	3		その他	14
	語学	2	設問10	電子ジャーナルの費用負担についてどのようにお考えでしょうか。	
	文学	4		慶應義塾大学全体(図書館図書費, 学部・研究室図書費の枠にとらわれず)で予算を確保すべきである。	236
	政治学	10		必要な部署のみが費用を出し合って契約すべきである。	16
	法律学	2		その他	12
	経済学	28	設問11	予算の有効利用およびスペースの節約のために、メディアセンターでは、塾内で購読しているプリント版の重複購入を研究室購読雑誌も含めて減らしたいと考えています。これについてどう思われますか。	
	経営学	16		状況は理解できるので、塾内にあれば納得する。	224
	財政学	2		塾内で重複しても現在購読しているプリント版を手元に置きたいので全て継続してほしい。	37
	社会学	11		その他	17
	教育学	7	設問12	所属学部はどちらですか。	
	民俗学	3		文学部	11
	医学	95		経済学部	20
	看護学	3		法学部	12
	体育学	7		商学部	10
	数学	22		医学部	65
	物理学	41		理工学部	90
	化学	45		総合政策学部	13
	天文学	1		環境情報学部	13
	地球科学	9		看護医療学部	4
	生物学	55		社会学研究科	1
	動物学	17		経営管理研究科	16
	土木学・建築学	10		政策・メディア研究科	5
	機械・電気工学	26		研究所・その他	18
	海洋工学	0	設問13	年齢をお答えください。	
	金属工学	4		20歳代	22
	農学	10		30歳代	66
	その他	27		40歳代	117
設問4	利用頻度についてお伺いします。			50歳代	61
	毎日利用している。	43		60歳代	12
	週に数回利用している。	97			
	月に数回利用している。	93			
	その他	16			
設問5	電子ジャーナルの利用方法についてお伺いします。(複数回答可)				
	手元にある引用文献情報から、電子ジャーナル検索システム(EJ-OPAC)を検索して利用する。	81			

の異動により、業務経験を積んでいる。こうしたことを考えあわせると、メディアセンター運営の最も基本的な予算について再考・再編を行わずに、電子ジャーナル・データベースの利用契約を現状のまま各地区間の分担交渉によって継続することはもはや不合理であり、非効率ではないだろうか。各地区メディアセンターは、地区というより大学の中での位置付けを明確にしたコレクションを築き、協力体制を強化しながらサービス体制を整備する時期がきて

いるのではないだろうか。このためには、図書館と教員との密なコミュニケーションが重要であろう。

意見の中には、メディアセンターの努力を評価し理解を得られていることが確信できるコメントも数多く存在した。今後もメディアセンターは慶應義塾大学で学習・教育・研究・医療に携わる全ての利用者に向けて、電子情報に関する情報を流す方法を整備し、情報を発し、資料収集方針への理解を求められるよう努力する必要がある。

表2. 電子ジャーナルとデータベースに関する意見・要望

1 電子ジャーナル・データベース導入に積極的な意見 (vsプリント版)

- ・やはり大きな時代の流れで、プリント版を利用することは少なくなると思います。ただ、僕の研究室は、日本中の量子化学者と協力して、QCLDBという文献データベースの作成に参画していて、具体的にはChemical Physics Lettersから、該当する文献情報を取り出しています。その作業で感じるのですが、ペラペラページをめくって、本当に欲しい情報を得るためには、論文のpdfなどのファイルをpc上で見るとは非常にやりにくく、プリント版は捨てがたいという思いもあります。慣れの問題だけとも思えません。操作性が絡みますので。(必要なら紙に印刷しても良いのですが。)しかし、このような特殊な利用形態を除くと、プリント版はやはり不要だと思います。
- ・プリント版の図書館での購読・保管は、電子ジャーナルのある雑誌についてはもはや不要である。頻りに読む雑誌は会員として購読しているはず。
- ・電子データベースについては、プリント版と代替可能なので、電子データベースだけでもよい。図書館にいてデータベースの雑誌をみておもしろそうなテーマを探すということは私の分野ではほとんどないため。
- ・教員・院生側に環境(ネットワーク・パソコン・高機能プリンタ)が整っている分野から順次導入するのが良いと思います。使い慣れれば、高品質のコピーを研究室で必要なときに閲覧・プリントできる電子ジャーナルの利便性が、印刷媒体より大きいことを、多くの人が納得するのではないのでしょうか。
- ・電子ジャーナルのない、古い文献についても積極的に電子データベース化(スキャン後PDF化)できれば、スペースの節約と利用者側からも時間の節約になると思う。プリント版の必要をほとんど感じない。
- ・電子ジャーナルを現在積極的に導入することは良いことだと思います。それにより、紙媒体の重複購読が減り、経済的にも、場所的にも利点があります。
- ・電子ジャーナル化は、積極的に進めていくべき方向だと思います。さらに、プリントアウトしたい場合の、レーザーカラープリンターも各部門への設置があれば、プリント版はほぼ不要ともいえると思います。
- ・24時間アクセス可能な点がelectric journalの最大の利点だと思います。ぜひ積極的に導入を進めていただきたいと思います。
- ・雑誌は、スペースが取られるので、電子ジャーナルにすべきと思う。どうしてもプリントが必要な場合はアクロバッテリーダースタイルでプリントアウトできればよいと思う。
- ・2003-10-17| 画像等の精細度は電子ジャーナルが劣る場合があるが、電子ジャーナルという方法論が成熟すれば、各分野の雑誌に要求されるクオリティを持った電子ジャーナルが揃うはず。また、電子ジャーナルであれば動画等のマルチメディアのコンテンツも構築可能であり、その可能性は紙媒体の雑誌を凌駕している。必要なときに必要な論文が入手できる電子ジャーナルは、今日の学術研究にとって不可欠である。昨今は学術文献の整理もソフトウェアで行うのが主流なのだから、電子ファイルと直接にリンクを張れない紙媒体を積極的に残す理由は、少なくとも私の専門分野ではほとんど見あたらない。
- ・今後紙媒体ではなく電子媒体のほうが良いと思います。
- ・同じ号の雑誌がプリント版と電子ジャーナルと両方なくてもいいと思う。どちらかといえば後者のみでOKです。

2 プリント版も必要だという意見 (vs電子ジャーナル)

- ・雑誌であっても、その文献のたたずまい・手触り・雰囲気を知ることは大切だと思います。大学でしか提供できない「無駄」を提供することは大学の使命だと思います。特に、「捨て目」の利かない学生、×選択式の設定にしか対応できない学生が増えている気がしてなりません。別に電子媒体の蔓延だけが原因とは思いませんが、苦勞して図書館の書棚を探し回り、そのついでに役に立ちそうな本にも捨て目を利かせる経験に乏しければ、そんな学生が出来上がっても仕方ないと思います。なお、教員はそれぞれの分野で資料アクセスの技を持っているはずですから、メディアセンターのあり方は、あくまでも学生本位・学生に対する教育効果を最優先に考える必要があると思います。
- ・電子ジャーナルはプリント版を補完するもので代替するものではないので、両者が必要。電子ジャーナルははじめから特定されているテーマの関連論文を探すのに便利。プリント版は図書館に行って、雑誌ごとにおもしろそうなテーマを探すのに便利。プリント版をなくすと、後者の利用法ができなくなるので、論文のアイデアを探すのに不便になる。
- ・電子版かハードコピーか、というのは難しい問題だと思います。「絶対にどちらか一方」という状況であれば、電子版を選択しますが、ばらばらと漫然とハードコピーに目を通せる環境があることを切望します。
- ・電子ジャーナルは、プリント版の単なるコピーとして、それに準ずる程度の価値しかないため、プリント版があればとくにわざわざ講読する積極的な理由は無い。図書館スペース節約のために契約するという考え方は、ぜひ避けて欲しい。むしろプリント版がない、あるいは膨大なプリント版資料からの検索を短時間で可能にするような「データベース」資料を、全塾の費用で積極的に導入すべきと考える。

- ・ 現在部署（キャンパス）が異なると電子ジャーナルが利用できない。日吉にいと信濃町で契約している電子ジャーナルが利用できないので、このような不便さが解消されなければプリント版は絶対必要である。
- ・ 経済学部の非常勤講師で情報処理を担当していますが、本務先は国立の研究機関です。専攻は理論物理ですが、この分野では、topicalな論文はarXiv.orgで無償で入手でき、参照される論文などをまとめて印刷物からコピーするというスタイルで、その環境で十分だと考えています。塾内各所で重複した雑誌を購読する必要はないと思いますが、印刷物としての雑誌は不可欠であると思っています。論文は本で読むもの、画面で眺めるものではない、というのは個人的好みではあります。
- ・ 基本的に電子版だけで良いと思うのですが、とり続ける方針の雑誌に関しては購読をやめた場合にも論文が取り出せなければ困ります。そのためには紙媒体を塾内で一コピーは購読するのが確実です。購読した年の雑誌を電子媒体で得られるのであればそれも良いと思います。
- ・ 私個人の経験ですが、物理学で最も良く読まれるPhysical ReviewとPhysical Review Letters誌が第1巻から電子化され、この2誌に関しては図書館で引くことが全くなくなりました。また、電子ジャーナルは索引機能で同一著者の文献を全て入手できるなど、紙の雑誌とは全く使い勝手が違います。従って仮に全ての学術雑誌が電子化されれば（特に過去のもの）、図書を借りる以外に図書館に行くことがなくなるのは確実です。ただ、紙の雑誌の購入を減らすのは時代の流れで仕方ないと思いますが、電子ジャーナルは発信元がつぶれればお終いですから、文化の保存？という図書館本来の目的を考えるとどうなのかなと思います。利用頻度の低い雑誌については、関東の大学で共有するとか早稲田と共有すると行った予算削減の方法もあるのでしょうか。
- ・ 予算が有効活用されるなら、電子ジャーナル化すべきであるが、そうでなければ紙の方が使いやすいので、無理に電子ジャーナル化する必要はない。
- ・ とくに、ここ数年、経験することが増えたように思いますが、必要な論文（製本したものも含む。）が無くなっている（あるべき場所にない、切り取られているなど）ことがあります。こういう問題への対策という点からも、電子ジャーナルの積極的導入は有効だと考えます。ただし、論文によっては、プリント版の電子化に相当のタイムラグを設けているものもありますので、少なくとも新しいものについては、プリント版も必要と考えます。
- ・ 電子ジャーナルといっても私は画面では読まずに別途印刷する。また、慶應義塾大学の場合は、大規模な三田図書館などでは実物をおいてその場で見ることに利点がある。さらに電子ジャーナルの得て不得手があり、日本の論文は電子化されていないものが多い。アンケートでなく、図書館における実物と電子ジャーナルの利用について被験者を50人くらい使って、使用勝手に関する実地テストをしてみて、さらにコスト計算をすべきと考える。アンケートは不完全な臆測に過ぎないと考える。
- ・ 電子ジャーナルは5年間の制限があったり、図を表示できないことがあります。
- ・ 電子ジャーナルは発行元の都合でサービスが中断されると、それ以降は全く使えなくなります。プリント版では一度書庫に収納されると、以降は大学の財産として未来にわたって自由に使うことができます。電子ジャーナル・プリント版の双方の利点を十分に考慮してください。
- ・ 電子ジャーナルはまだ歴史が浅いので、基本的には印刷物を保持している方が情報の質は高いと思う。（現状では）
- ・ 電子版のメリットは印刷前の最新号へのアクセスが可能であるという点が大きいので、メジャーな雑誌のアクセス権は一通り確保する必要があるが、そうでない雑誌については、必ずしも電子版でなくても良いと思う。

3 要望・提案

- ・ 「電子ジャーナルにどれだけアクセスできるかが、大学の質を決める」というのが、国際的な大学の評価基準のひとつです。今後、慶應が一流レベルを保つ上で、多くの電子ジャーナルとの契約は最重要項目です。年齢の高い先生の中には、昔の形を好む先生もいらっしゃるかもしれませんが、世界は変わっているということを十分に認識すべきだと思います。雑誌のインパクトファクターは、出版後、いかに簡単にユーザーがPDFを落とせるかで決まってくるというのが現状です。是非とも、予算面でも前向きな対応を期待したいです。重ねていますが、「電子ジャーナル契約は、レベルの高い大学の必須条件」です。よろしく願います。
- ・ 電子ジャーナルやデジタルライブラリのおかげで効率よい研究活動ができ、大変感謝しております。こういった体制は慶應の財産としますので、是非、今後も、維持と進化を続けていく必要があるかと思えます。
- ・ アクセス可能な電子ジャーナルの数は、先端分野研究における競争力の大きな要因のひとつになると思われる。また蔵書と同じく、その大学機関の評価にもつながるものだと考えられるので、今後とも電子ジャーナル環境の整備に努力を続けて欲しい。
- ・ できるだけ多くの電子ジャーナルを購読して欲しい。バックナンバーも入手可能な限り古いものも購読して欲しい。
- ・ メディアセンターのリストから利用する場合、使い勝手をよりよいものにする余地があるように思う。（目的雑誌に到着するのに、わずらわしさ。また到着してもいろいろ理由からすぐにダウンロードできない事が良くある）
- ・ 塾内で重複が少ないように調整して、全文ダウンロードできるジャーナルをもっと増やしてほしい。
- ・ 境界分野で仕事をしているせいもありますが、複数のデータベースを使わなければなりません。必要な文献にたどり着くまでの手続きが複雑で、いつも時間がかかってしまいます。また、学術誌によっては、オンラインで全文参照できるものの発行年度が限られているものがあり不便を感じます。移行期なので仕方ないのでしょうか。いずれにしても、何がオンラインで利用可能・不可能であることを示したり、必要な学術誌にすぐにアクセスするためのナビゲーション・システムの必要性を感じます。
- ・ アクセス可能な電子ジャーナルの数は、先端分野研究における競争力の大きな要因のひとつになると思われる。また蔵書と同じく、その大学機関の評価にもつながるものだと考えられるので、今後とも電子ジャーナル環境の整備に努力を続けて欲しい。
- ・ もっと購読できる電子ジャーナルの数を増やして欲しい。
- ・ 東大のように、全塾での統一ライセンスを作り、キャンパス間の格差を無くしたり、入手できる雑誌を増やして頂きたい。特に、SFCのような境界領域の研究が多いキャンパスでは、当然のように必要とする雑誌であるのに契約されていなかったりすることがある。
- ・ 是非、積極的に電子ジャーナルを導入してほしい。
- ・ 電子ジャーナル化は時代の流れです。極近い将来に研究室のPCから学術雑誌を読むような時代になります。しかし、時代の流れに乗れない方々ができます。頻りに講習会を開いたりするようなことが大切だと思います。IT革命についていけない方々に常に配慮して電子ジャーナルを取り込むようにしてください。
- ・ 紙媒体と電子情報の併用の期間は予算が膨張すると思います。外部資金の導入の際にオーバーヘッドを確実に取り、そのお金を原資にするなどの工夫が必要です。

- ・ 会議などでも申しあげていることですが、電子ジャーナルの浸透によって塾図書館の予算が影響を受けているのは確かどころだと思います。利用者としては、とくに料金について、図書館側が電子ジャーナルの運営主体とできるだけ交渉していただきたいと思っています。すでにそのための私立大学の機構もできつつあるとうかがっています。このままですと、何本もの電子ジャーナルを一括購入するというのが一般的になり、結果として高価な買い物をし続けることとなります。配布されたものにも電子ジャーナルの料金体系についての簡単な説明がありますが、もっと立ち入った説明をお願いいたします。紙媒体から電子媒体への過渡期にあり、利用者の考えもけっして一枚岩ではありません。そのような意味で、このようなアンケートは必要なものだと思いますし、適切な時期になされていると思いました。あわせて、既存の学部図書館委員会のレベルでも是非この問題を議論としていただきたいと思っています。教員の意見も、年齢、専門、個人の考えによって大きくことなりますので、意見の集約は困難かと思いますが、よろしくをお願いいたします。
- ・ 図書館にコピーしに行かなくて済むので便利ですが、新しいものしか入手できないので、探してみても無駄に終わることも多いです。2度手間にならないよう、OPACに電子ジャーナルで入手が可能かどうかを確認できる機能を付加してもらえると助かります。
- ・ 電子ジャーナルをダウンロードする際、ダウンロードの速度が非常に遅い場合がよくある。こうした場合、せっかくなまらって検索・閲覧できても、最終的にはgoogleなどで検索して、著者のウェブページなどからダウンロードすることになる。どのようなことが原因なのか、可能であればその理由を明らかにし、また状況の改善を図ってほしい。
- ・ 日本語の電子ジャーナルがもっと（無料で）読める環境にして欲しいです。NACSIS - IR導入とか。
- ・ 研究者には必要不可欠なものです。ぜひとも継続、新規購入について常に前向きでお願いいたします。
- ・ 契約が出版社単位なことが多く、分野で限定して必要なものだけを選べないので難しいかと思いますが、出来るだけ幅広く維持していただきたいと思っています。
- ・ 必要なときに土日や時間外といった制約なく論文を読めるということは、日常臨床で図書館に行く余裕がない小生にとっては大変ありがたいシステムです。キャンパスの外からもフルペーパーを読めるようなシステムがあると、なおありがたいです。
- ・ 図書館に行く時間がないので、大変便利です。歯科はマイナーですが、予算の許す限りお願いしたく存じます。
- ・ 有償でもよいので、学外からも塾内と同様の環境でアクセスできるようにしてほしい。
- ・ 電子ジャーナルは便利なので、どんどん増やしてほしい。
- ・ 電子ジャーナルは大変便利なのですが、パスワードがあるものが多く、ほしいときにパスワードをといわれると困ってしまうことがあります。
- ・ 図書館で契約している電子ジャーナルはすべてダウンロードできるように努力してほしい。文献を見つけても、有料である場合が間々あるのは不便である。
- ・ 社会学研究科会議で、図書費が赤字になるゆえ、図書購入が困難になったと聞きました。やはり電子化などで重複購読を避ける必要があると思います。それからそのことに関連して、各部署の雑誌論文を容易に手に入れるシステムを塾内で確立して欲しい（新任なので、私が知らないだけかもしれませんが）。
- ・ 電子ジャーナルを発行元の言いなりでなく購読するためには全塾での統一したポリシーと交渉する窓口があった方が良くと思います。そのような意味では経済的にもキャンパスをまたいで協力すべきだと思います。その一方、それだけでは予算的には困難な場合もあると思いますので、必要な部署が負担しても良いと思います。我々もこれからも協力していくつもりです。現状では予算に関してはある程度臨機応変に対応する必要がありそうです。
- ・ 医学部卒業生（三四会員）には、信濃町勤務でなくても、電子ジャーナルを使う権利を与えて欲しい。その場合、多少のコスト負担（年会費）は、徴収してもよいと思う一方、上記質問にもあるように、重複、無駄は省いて、 unnecessary コストは極力削減し、その分の経費で採用ジャーナルを増やすべきであると思う。
- ・ 現在のところ、慶應の医学ITCのメールを持っていないと電子ジャーナルが利用できないようになっているみたいで、他のプロバイダーからメディアセンターに接続した場合は電子ジャーナルが入手できない。他のプロバイダー経由で接続してもパスワードが何かで塾員認識し、電子ジャーナルが入手できるようにしてほしい。
- ・ 予算に限りがあるのは理解できるが、telemedicineなどの新しい重点的研究分野は積極的に取り入れてほしい。無駄を省き、労力を減らすためには電子化は重要と思う。各教室で希望する電子ジャーナルについては教室研究費を使っても購読するべきである。
- ・ 購読拡大と同時に契約単価の引き下げ交渉を頑張って欲しい。慶應大学は日本有数のユーザー（得意先）であるはずで、有利な立場で交渉できるはずだ。
- ・ どんどん導入してください。
- ・ 所属は信濃町としましたが、月が瀬りハビリテーションセンター勤務です。
月が瀬りハビリテーションセンターでは、地域的问题をカバーするため、電子ジャーナルは不可欠と考えています。ただし、ネットの環境の問題もあり、解決すべき点もあります。小さな組織ですが、慶應内部の組織ですので、月が瀬りハビリテーションセンターも視野に入れた上で、検討して下さい。
- ・ 現在無料で利用できる電子ジャーナルが少なすぎるので、もっと増加して欲しい。また、利用できる雑誌でも古い論文は電子ジャーナル化していないものが多いので、全て電子化して欲しい。
- ・ 数年前アメリカに留学した時に他大学の電子ジャーナルの状況を見ることができた。米国と比較し、慶應大学のメディアセンターの電子ジャーナルの充実ぶりに（慶應大学の見識の高さに）感動した覚えがある。今後の慶應医学の発展の重要な礎石となるものと思われるので、可能な限り質、量ともに現在以上に充実させてほしい。
- ・ 執筆などは自宅であることが多いので、自宅からも電子ジャーナルが簡単に利用できるとよい。現在もsshでfbcにログインし、ターミナル上でlynxで検索&ダウンロードしているので、不可能ではありませんが。
- ・ 新しい分野について研究をはじめよう、という場合、ジャーナルなどを限定せずキーワードで広い範囲のジャーナルを検索する。その場合、DBをまたいで検索できると大変楽。
- ・ 文学関係の電子ジャーナルが不足しているので充実を図って行ってほしい。たとえばFirstSearchのMLAなどはない。Webspireで閲覧できるが、更新回数が少ないのか、FirstSearchのMLAに比べるとアップデートが遅い。同じデータベースを契約するのならば、より使うのに価値のあるものを導入してほしい。

- ・ 日吉には各分野の教員が少数ずつながら研究・教育活動をしています。分野が異なるので、それぞれの雑誌を研究室図書費で日吉にそろえるのは（キャンパスごとの契約となる電子ジャーナルにおいても）困難なことです。だからといって日吉の教員が学術雑誌から遠ざけられてよいわけがありません。少なくとも学部専門課程のおかれている三田、矢上、信濃町などで閲覧可能な電子ジャーナルは日吉でも使用可能になるようにしていただきたい。その際の予算はできれば「塾全体」として考えていただきたい。間違っても「日吉も信濃町も一つのキャンパスだから折半で」などということを出さないでいただきたい。何せ利用する人の数が違うのですから。思いつきですが、電子ジャーナルは利用可能な人数で料金が算定される場合があるのでしょうか。そういうときに、電子ジャーナルをほとんど利用しない1・2年生がほとんどの日吉キャンパスは圧倒的に不利になります。教員のみを利用権を与えるような方式で安価に契約できないでしょうか？
- ・ 電子ジャーナルは、利用価値が高い。できるだけ数多くの電子ジャーナルを閲覧できるように希望する。
- ・ 電子ジャーナルとして使える雑誌タイトル数をさらに増やして欲しい。
- ・ もう少し古くまで（80年代までは）契約してほしい。
- ・ 一定のタイトルが提供会社間の売買の対象となる場合があり、出版社の資本関係の変化で、慶應で利用できるデータベースから消えることがある。こうした不便を避ける方策があれば、ご検討いただきたい。
- ・ データベースは共有化されるように設定してほしい。（三田でのみ利用可能なCD-ROMを共同アクセスにするなど）
- ・ 契約の問題もあると思うが、塾外からも利用できるようにしてほしい（大学に出てこない利用できない、というのでは不便）。
- ・ ブロードバンド化が進んでいる状況、私は必ずしもそうでないですが、文系の研究者は自宅での研究を行う人が多いことを考えると、自宅からE-Journalにアクセスできるようにしないといけないのではないのでしょうか？フレッツADSLでは大学にアクセスできますが、遅くなり実用的ではないです。私はアメリカ経済学会の会員ですが、JSTORを自宅からアメリカにアクセスしてつかえますし、以前は米国の大学との共同研究により、米国の大学のライブラリーにアクセスして情報を取れました。なぜ、メディア環境が最先端、図書館学の雄である慶應で、慶應SFCで利用できないのが不思議です。ご検討いただけますでしょうか？
- ・ 慶應内部からだけでなく、自宅からも（大学への接続ではなく）、たとえば、パスワード等によって利用できれば、飛躍的に便利になるのですが、無理？
- ・ 韓国語の電子ジャーナルも積極的に検討していただきたい。
- ・ 電子ジャーナルは非常に便利なので、是非、多くの雑誌を読めるようにしていただきたいと思います。ACSコンソーシアムのように、前年度と同じ雑誌購読が継続されないと、キャンパス全体で2年間電子ジャーナルが利用できなくなるなどの事態は避けていただきたいです。購読雑誌は、教員の異動に伴い、流動的であるし、予算上、削らざるを得ないこともあるからです。
- ・ 私自身は非常に有効に使わせてもらっております。私の仕事の範囲がスポーツ関係といったところで、若干違いますので、電子ジャーナルの使用範囲が限られているのが残念です。新たに購読していただきたくお願いしたいのですが、これは私どもの施設との費用の分担も考慮したいと考えます。
- ・ 出来る限り利用可能な電子ジャーナルを増やして欲しい。検索で論文が見つかってそこから原文をダウンロードできなければ意味がないし、義塾内にも本も多いため、他の図書館で探し回る事になるが、非常に手間がかかる。利用可能な電子ジャーナル数を全国の大学でトップレベルにして欲しい。
- ・ データベースについて。いつも数多くの文献複写を申し込んでおりますので、迅速な手配に感謝しておりますが、なるべくフルペーパーでダウンロードができるものがあると良いと思います。（特に海外誌用に）その方が文献複写申請数が減り、仕事の効率化と人員削減に有効であると思います。現在は海外の雑誌ではPub Med, ProQuest, ScienceDirectなどを利用しています。
- ・ 電子ジャーナルの場合、印刷して読むことが多いと思います。高質高速プリンタの整備も必要と思います。
- ・ 24時間思い立った時に文献にアクセスできる環境は絶対に必要である。
- ・ ScienceDirectは現在過去5年分しか利用できないが、社会科学分野の雑誌ではウェブ上では創刊号から電子ファイルが利用可能になっている。是非とも創刊号から慶應でもダウンロードできるようにしていただきたい。強く希望します。
- ・ できるだけムダ（予算・スペース）のないシステムを導入すべき
- ・ 医学メディアセンターの電子ジャーナルのフルテキストに、日吉メディアセンターからもアクセスできるようにして欲しい。